

WAP371でのクライアントQoSアソシエーション設定

目的

クライアントQuality of Service(QoS)アソシエーションは、ネットワークに接続されたワイヤレスクライアントを制御するために使用され、クライアントが使用できる帯域幅を管理できます。クライアントQoSアソシエーション(SA)では、アクセスコントロールリスト(ACL)を使用してトラフィックを制御することもできます。ACLは、許可条件と拒否条件、またはセキュリティを提供するルールの集合です。権限のないユーザをブロックし、権限のあるユーザが特定のリソースにアクセスできるようにします。ACLは、ネットワークリソースに到達しようとする正当でない試みをブロックできます。

このドキュメントの目的は、WAP371でQoSアソシエーション(SA)を設定する方法を示すことです。

該当するデバイス

- WAP371

[Software Version]

- v1.2.0.2

クライアントQoSアソシエーションの設定

ステップ1: Web設定ユーティリティにログインし、[Client QoS] > [Client QoS Association]を選択します。「クライアントQoS関連付け」ページが開きます。

ステップ2:[Radio]フィールドで目的の無線周波数をクリックします。

オプションは次のとおりです。

- 無線1:5 GHzの無線周波数を持ち、2.4 GHz以上の速度を向上させると同時に、干渉による汚染が少ないチャンネルを増やします。ただし、範囲が狭く、サポートする新しいデバイスでのみ使用できます。
- 無線2:2.4 GHzの無線周波数を持ち、古いデバイスをサポートし、5 GHzよりも広い範囲を提供しますが、速度は低くなります。

ステップ3:[VAP]ドロップダウンリストで、クライアントQoSパラメータを設定する仮想アクセスポイント(VAP)を選択します。VAPは、無線LANを複数のブロードキャストドメインにセグメント化するために使用されます。無線タイプごとに最大8つのVAPを使用できます。

Client QoS Association

Radio: Radio 1 (5 GHz)
 Radio 2 (2.4 GHz)

VAP: VAP 0 (ciscosb) ▼

Client QoS Mode: VAP 0 (ciscosb)
VAP 1 (Virtual Access Point 2)
VAP 2 (Virtual Access Point 3)
VAP 3 (Virtual Access Point 4)
VAP 4 (Virtual Access Point 5)
VAP 5 (Virtual Access Point 6)
VAP 6 (Virtual Access Point 7)
VAP 7 (Virtual Access Point 8)

Bandwidth Limit Down: Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: Mbps (Range: 0 - 1300)

ACL Type Down: None ▼

ステップ4:[\[Client QoS Mode\]](#)フィールドの[\[Enable\]](#)チェックボックスをオンにして、選択したVAPのQoSサービスを有効にします。

Client QoS Association

Radio: Radio 1 (5 GHz)
 Radio 2 (2.4 GHz)

VAP: VAP 0 (ciscosb) ▼

Client QoS Mode: Enable

Bandwidth Limit Down: Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: Mbps (Range: 0 - 1300)

ステップ5:[\[Bandwidth Limit Down\]](#)フィールドに、WAPデバイスからクライアントへの必要な最大伝送レートをビット/秒で入力します。範囲は0 ~ 1300 Mbpsで、0は無制限です。

Client QoS Association

Radio: Radio 1 (5 GHz)
 Radio 2 (2.4 GHz)

VAP: VAP 0 (ciscosb) ▼

Client QoS Mode: Enable

Bandwidth Limit Down: 500 Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: Mbps (Range: 0 - 1300)

注：帯域幅の制限を有効にするには、ステップ4と[も、クライアントのQoSモードを有効にする必要があります。](#)

ステップ6:[\[Bandwidth Limit Up\]](#)フィールドに、クライアントからWAPデバイスへの最大伝送レートをビット/秒で入力します。範囲は0 ~ 1300 Mbpsで、0は無制限です。

Client QoS Association

Radio: Radio 1 (5 GHz)
 Radio 2 (2.4 GHz)

VAP:

Client QoS Mode: Enable

Bandwidth Limit Down: Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: Mbps (Range: 0 - 1300)

注：帯域幅の制限を有効にするには、ステップ4とも、クライアントのQoSモードを有効にする必要があります。

ステップ7:[ACL Type Down]ドロップダウンリストでACLのタイプを選択し、アウトバウンド (WAPデバイスからクライアント) 方向のトラフィックに適用します。

Bandwidth Limit Down: Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: Mbps (Range: 0 - 1300)

ACL Type Down:

- None
- IPv4
- IPv6
- MAC

ACL Name Down:

ACL Type Up:

ACL Name Up:

DiffServ Policy Down:

DiffServ Policy Up:

オプションは次のとおりです。

- [None]:ACLタイプが選択されていません。
- IPv4:ACLはIPv4パケットのACLルールとの一致を調べます。
- IPv6:ACLはIPv6パケットを検査し、ACLルールに一致するかどうかを確認します。
- MAC:ACLはレイヤ2フレームを調べて、ACLルールとの一致を確認します。

ステップ8：アウトバウンド方向のトラフィックに適用するACL名前ダウンドロップダウンリストでACLの名前を選択します。

Bandwidth Limit Down: Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: Mbps (Range: 0 - 1300)

ACL Type Down:

ACL Name Down:

ACL Type Up:

ACL Name Up:

DiffServ Policy Down:

DiffServ Policy Up:

注：ACLを選択するには、[Client QoS] > [ACL]で事前に設定したACLルールが必要です。詳細は、『[WAP371でのACLルールの設定](#)』を参照してください。

ステップ9:[ACL Type Up]ドロップダウンリストでACLのタイプを選択し、インバウンド (クライアントからWAPデバイス) 方向のトラフィックに適用します。

Bandwidth Limit Down: Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: Mbps (Range: 0 - 1300)

ACL Type Down:

ACL Name Down:

ACL Type Up:

ACL Name Up:

DiffServ Policy Down:

DiffServ Policy Up:

オプションは次のとおりです。

- [None]:ACLタイプが選択されていません。
- IPv4:ACLはIPv4パケットのACLルールとの一致を調べます。
- IPv6:ACLはIPv6パケットを検査し、ACLルールに一致するかどうかを確認します。
- MAC:ACLはレイヤ2フレームを調べて、ACLルールとの一致を確認します。

ステップ10:[ACL Name Up]ドロップダウンリストで、インバウンド方向のトラフィックに適用するACLの名前を選択します。

Bandwidth Limit Down: 500 Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: 500 Mbps (Range: 0 - 1300)

ACL Type Down: IPv4

ACL Name Down: ACL_test

ACL Type Up: IPv4

ACL Name Up: ACL_test

DiffServ Policy Down:

DiffServ Policy Up:

Save

注：ACLを選択するには、[Client QoS] > [ACL]で事前に設定したACLルールが必要です。詳細については、『[WAP371でのACLルールの設定](#)』を参照してください。

ステップ11:[DiffServ Policy Down]ドロップダウンリストから目的のDiffServポリシーを選択し、WAPデバイスからのアウトバウンド方向のトラフィックに適用します。

ACL Type Down: IPv4

ACL Name Down: ACL_test

ACL Type Up: IPv4

ACL Name Up: ACL_test

DiffServ Policy Down: policy1

DiffServ Policy Up:

Save

注：DiffServポリシーを選択するには、[Client QoS] > [Policy Map]で事前に設定したDiffServポリシーが必要です。詳細については、『[WAP131、WAP351、およびWAP371でのポリシーマップの作成](#)』を参照してください。

ステップ12:[DiffServポリシーアップ(DiffServ Policy Up)]ドロップダウンリストから目的のDiffServポリシーを選択し、WAPデバイスからのインバウンド方向のトラフィックに適用します。

ACL Type Down: IPv4

ACL Name Down: ACL_test

ACL Type Up: IPv4

ACL Name Up: ACL_test

DiffServ Policy Down: policy1

DiffServ Policy Up: policy1
policy2

Save

注：DiffServポリシーを選択するには、[Client QoS] > [Policy Map]で事前に設定したDiffServポリシーが必要です。詳細については、「[WAP131、WAP351、およびWAP371でのポリシーマップの作成](#)」の記事を参照してください。

ステップ13:[Save]をクリックして、設定を保存します。

Client QoS Association

Radio: Radio 1 (5 GHz)
 Radio 2 (2.4 GHz)

VAP: VAP 0 (ciscosb)

Client QoS Mode: Enable

Bandwidth Limit Down: 500 Mbps (Range: 0 - 1300)

Bandwidth Limit Up: 500 Mbps (Range: 0 - 1300)

ACL Type Down: IPv4

ACL Name Down: ACL_test

ACL Type Up: IPv4

ACL Name Up: ACL_test

DiffServ Policy Down: policy1

DiffServ Policy Up: policy2

Save